

花巻市 博物館

目次／P1 共同企画展「小野寺周徳 - 花巻画人の先駆的存在」／
P 2-3 テーマ展「めでたい! 花巻人形」／P4-5 共同企画展「小
野寺周徳 - 花巻画人の先駆的存在」／P6 博学連携活動レポート／
P7 館長コラム・行事案内・インフォメーション／P8 花博コレク
ション



だより

2020.12
No. 62



小野寺周徳「花鳥図屏風」151.5 × 301.0cm 六曲一隻

小野寺周徳^{おの でらしゅうとく} (1759~1814) は、花巻城出入りの医師、立民^{りつみん} (1725~1804) の子として宝暦9年 (1759) 花巻に生まれました。名を立為^{りつゐ}といい、周徳のほか、豊水^{ほうすい}の雅号を用いました。

盛岡藩の記録によると、周徳は寛政年間 (1789~1801) に医術修行のため江戸に上っています。勉学に精励するかたわら、当時、江戸画壇の中軸的存在であった谷文晁^{たにぶんちやう} (1763~1840) に画を学びました。盛岡藩の花巻御役医を務めながらも、画人としても大いにその腕をふるいました。

「花鳥図屏風」の鶴、竹、牡丹は極彩色で描かれており、中央の鶴3羽が見る者をひきつけます。さらに、竹や左右の牡丹の鮮やかな色彩で、画面全体を引き立たせています。

令和2年12月5日 (土) から令和3年1月31日 (日) の期間で、共同企画展ぐるっと花巻・再発見! ~イーハトーブの先人たち~「小野寺周徳 - 花巻画人の先駆的存在」を開催します。小野寺周徳の魅力に迫りたいと思いますので、ご来館をお待ちしております。

令和2年度テーマ展

めでたい! 花巻人形



鯛担ぎ

期間：令和3年2月13日（土）～4月4日（日）*会期中無休*

花巻人形は、江戸時代後期の盛岡藩領花巻で誕生した土人形です。仙台の堤人形^{つつみ}を伝習し制作が始まったといわれ、独自の発展を遂げました。東北地方の各地にある個性豊かな土人形の中でも、花巻人形は仙台の堤人形、米沢の相良人形^{さがら}と共に「東北三大土人形」と称されています。

花巻人形の題材には、内裏雛^{だいりびな}をはじめとする子供の健やかな成長を願うものや、七福神などの神様を表した縁起物が多くありますが、各時代の文化や暮らしの様子、世相^{せそう}を反映させたものも少なくありません。そのため花巻人形は、多種多様な題材が鮮やかな色彩と花模様、そして職人の豊かな表現力が相まって、衣装雛^{いしょうびな}とはまた違った愛らしさと華やかさを兼ね備えています。

本展では、館所蔵の570種類3,500点以上のコレクションの中から、華やかで“おめでたく”もあり、思わず“愛でたく”なる花巻人形の奥深い魅力を紹介します。



太鼓と童子

序. お迎え雛壇

花巻地方の雛祭りに花巻人形は欠かせないものでした。雛壇^{ひなだん}には自宅にある雛人形と花巻人形と一緒に飾り、子供の成長を祝う家庭が多くあったといわれています。

本章では、花巻人形の雛壇と花巻市大迫町^{おおはままち}にあった旧山田家から寄贈された衣装雛^{いしょうびな}の雛壇を展示し、華やかにご来館者をお迎えします。

一. 花巻人形の魅力

郷土人形は、江戸時代の庶民文化から生まれた人形で、文化・文政期から明治時代初期にかけて全

国各地で盛んに作られました。その中でも特別な輝きを放つのが花巻人形です。

本章では、個性豊かな東北各地の土人形と共に、花巻人形の特徴や制作工程、制作に携わった職人などを紹介し、花巻人形の世界へと誘います。



春の宵

二. 子供の健やかな成長を願う

花巻人形は、子供の健やかな成長と幸せを願い作られました。そのため、童子を題材とした人形が多く見られます。また、彩色には赤色が多用されています。赤色は古くから病魔^{はら}を祓う色とされ、健康のキーカラーでもあります。



桃太郎

本章では、見ているだけでも元気になる童子を題材とした人形を紹介します。

三. 愛らしい動物

花巻人形は、犬・猫・鶏・馬・牛などの人の生活に身近な動物も題材となっています。動物が題材の人形は、ユーモラスで愛らしいのはもちろんですが、やはり子供の健やかな成長や幸せなど様々な願いが込められています。

本章では、心温まる様々な動物が題材の人形を紹介します。



かま猫

四. 芸能の世界

花巻人形には、能や歌舞伎など様々な芸能の場面を表現した人形がいくつもあります。また、歴史上の人物を取り入れた人形も見られます。花巻人形は、江戸や上方の文化を伝えるものであり、歴史や道徳の教材としての側面もあつたと考えられます。これらの花巻人形は子供だけでなく、大人も楽しませたことでしょう。

本章では、文化や歴史の場面を題材とした人形を紹介します。



仁田忠常の猪退治

天は人気の題材です。その他には、学問の神様として名高い天神様、達磨、お福と福助など、見るもの飾るものに幸福をもたらす多種多様な縁起人形が作られました。



七福神宝船

また、縁起物が題材の人形は、雛人形とは別に神棚に祀られるなど、信仰の対象としても大切にされてきました。

本章では、縁起の良い花巻人形を紹介し、幸福なひとときをお届けします。



網敷天神

五. 時代の移ろい

花巻人形をはじめとする郷土人形の最盛期は、江戸時代の町人文化の成熟期であつた文化・文政期

(1804～1830)頃とされています。そのため、花巻人形には侍や町人、美しい花魁など江戸時代の風俗を表現した人形が多く見られます。



三味線持ち美人

その後、江戸時代が終わり、明治時代が幕を開けると、近代化によって暮らしも大きく変わりました。西洋文化の導入に伴って新たな玩具も普及し、全国的に郷土人形は衰退しました。

しかし、花巻人形は、明治時代の世相を反映させた新たな人形を加えることによって危機を脱しました。

本章では、江戸時代と明治時代の風俗や世相を題材とした人形を紹介します。



アイウエオ

終. 現代の花巻人形

花巻人形の制作には、太田家、苗代澤家、古舘家、照井家など複数の職人が携わっていましたが、明治時代以降に廃業が相次ぎ、最後まで制作を続けていた照井家が昭和34年(1959)に廃業すると、花巻人形の制作は途絶えてしまいました。

しかし、昭和49年(1974)、郷土玩具を制作していた平賀工芸社の故平賀孫左衛門・故草一親子が、遺されていた照井家の人形型を使い、再び花巻人形の制作を復活させました。現在、「花巻土人形」としてその制作は続いており、温かな土人形のぬくもりを伝えています。(学芸員 高橋静歩)

■関連イベント

▽花巻人形絵付体験

講師：平賀 恵美子 氏(平賀工芸社)

日時：令和3年3月28日(日)

13:30～15:00

場所：花巻市博物館 講座体験学習室

参加費：1,600円～

定員：15名(※要電話申込)

☎ 0198-32-1030

六. 神々の遊び

花巻人形の中でも神様などの縁起物を題材とした人形は、ひときわ多くあります。特に恵比寿や大黒

ぐるっと花巻・再発見！～イーハトーブの先人たち～

小野寺周徳 — 花巻画人の先駆的存在

期間：令和2年12月5日(土)～令和3年1月31日(日) 休館日：12月28日～1月1日

【花巻画人の先駆的存在 小野寺周徳】

周徳は、花巻城出入りの医師、立民^{りつみん}（1725～1804）の子として、宝暦9年（1759）花巻に生まれました。名を立為^{りつゐ}といい、周徳のほか、豊水^{ほうすい}の雅号を用いました。

周徳は、江戸時代後期に盛岡藩の花巻御役医を務め、また、画人としても、神社に絵の奉納などをして、大いにその腕をふるいました。



唐子遊戯図
天明7年（1787）
落款「野周徳写意」 印章「野周徳」



盛岡藩の記録によると、寛政年間に美術修行のため江戸に上っています。勉強に精励する傍ら、当時、江戸画壇の中軸的存在であった谷文晁^{たにぶんちやう}（1763～1840）に画を学びました。

山水図
寛政10年（1798）
落款「寛政戊午初冬豊水野周徳写」
印章「周徳」「子元」

【中央画壇との交流】



鯉魚図
寛政10年（1798）
右幅「寛政戊午孟秋野周徳寫」
左幅「寫山樓寫生會探得鯉魚野周徳」
印章「周徳」「子元」（兩幅とも）

周徳はこの画を四十歳の時に描きました。前年に家督を継ぎ、医師としてまさに不惑の決意を新たに、さらには、画人として江戸随一の画家のもとで研鑽を積んだ誇りを胸に、立身出世を象徴する伝統的な画題に挑んだ記念碑的な作品です。

【故郷での活躍】

その後、故郷に戻り藩内で絵師としても知られるようになりました。周徳には診察と薬を求める患者が数百戸もあり、日々多忙であったようですが、ユーモアを好み、寸暇に絵をたしなみました。画風は多彩で、医者 の傍ら趣味として描いたとは思えな



花鳥図襖絵
文化6年(1809)頃

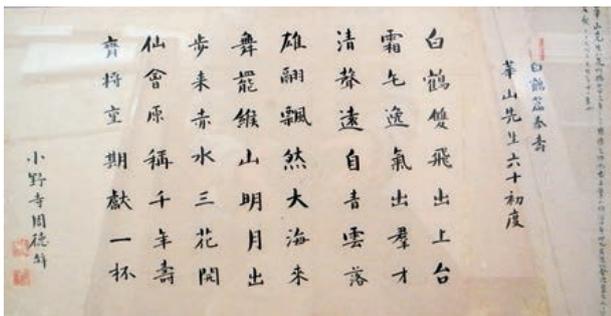
いほどで、格調が高く、特に花鳥の絵には優れているものがあります。なかでも有名なのは、文化6年(1809)の花巻城大改修に伴う襖絵や屏風制作です。当時の藩主南部利敬(1782～1820)の命により制作され、さらに評価を高めました。画人としての周徳は、文化年間(1804～1814)の約10年間が最も活躍した時期になります。

【交流した人々】

及川祐忠(1727-1788)は、号を華山と称し、花巻に生まれました。源氏の末裔として南部氏に仕えた系譜をもつ祐忠は、幼少から学を好み、高い教育と教養を身につけました。

祐忠は、郷里の子弟の教育に力を発揮し「豊水亭」という学問所を設置しました。その教育は、幼き者には読み書きを主に教え、長じた者には詩を教え、礼に重んじた教育を行いました。周徳は、ここで詩等を学びました。

天明7年(1787)9月に、祐忠は還暦を迎えましたが、周徳がそれを祝って師を讃えた「奉華山先生六十初度」、「白鶴篇奉壽 奉華山先生六十初度」があります。



白鶴篇奉壽 奉華山先生六十初度
天明7年(1787)

また、翌年祐忠が死去したときに詠んだ詩文が遺されています。前年に還暦の祝賀を行ったばかりで、恩師を失った周徳の悲痛な心情が述べられています。

上田弥四郎(1768-1840)は、花巻御給人の上田貞栄の子として生まれ、名を貞能、字を子讓、号を駒嶽、寒沢などと称しました。

上田家は代々学問に力を入れ、弥四郎もよく儒学に励むと共に、建築や造作の技も身につけました。文化6年(1809)の花巻城大改修に際しては、二の丸にあった北御役屋、南御役屋等の建築や造作の指揮をつかさどる俊才でありました。

周徳とは親友で、文化11年(1814)9月に病のため亡くなった周徳へ「小野寺子元哀辞」と題した碑文を遺しました。

医師と画人の二足の草鞋を履きながらも、花巻画人の先駆的存在としてその名を馳せた周徳。その生涯を振り返り、多彩な表現力を発揮した作品を紹介するとともに、作風の移り変わりや魅力に迫りたいと思います。

(学芸員 小原伸博)

※花巻市内の共同企画展開催施設にて、スタンプラリーやバスツアーを実施します。こちらにつきまして、詳しくは市生涯学習課芸術文化係へお問い合わせください。(☎0198-41-3588)

東和ふるさと歴史資料館の 資料移転作業が進められています

平成 27 年度から休館していた東和ふるさと歴史資料館の資料が、田瀬振興センター（旧田瀬小・中学校）と成島振興センター（旧成島小学校）に移されることになっていましたが、年内にその作業を行うことができるように、博物館では台帳と資料との照らし合わせや、新しい資料札の取り付けを急ピッチで進めています。

東和ふるさと歴史資料館には、古文書を含め、およそ 15,000 点の資料があります。この資料を種類等によって現在の田瀬振興センターと成島振興センターに移します。博物館の学芸系の職員が、週に 2 度ほど東和ふるさと歴史資料館に出向き、午前 9 時から午後 3 時頃まで、資料の確認や撮影、札付け等の作業を行っています。資料は、移された後も申請により閲覧できるようになっています。



資料札の取り替え作業



古文書を写真撮影中



資料を探しているところ

花巻人形カード制作中

花巻人形カードは、花巻市博物館に収蔵している花巻人形の写真をカードに印刷した物です。今制作中の花巻人形カードは、Vol. 1 で、54 枚のカードで 1 組になっています。神経衰弱や花札の花合わせ、トランプのばばぬきやセブンブリッジのような遊び方ができます。遊ぶことで、花巻人形に慣れ親しんでもらったり、特徴をつかんでもらったりすることをねらいとしたカードです。

花巻市博物館の職員が手作りで制作しています。年度内に 19 セットを制作し、花巻市内の学童保育へ配付し遊んでもらうことを計画しています。その後、希望する市内小・中学校にも配付したいと考えています。



花巻人形カード制作の様子

館長 コラム

熊堂古墳群

花巻市上根子にある熊堂古墳群は、東北地方北部の群集墳（末期古墳群）を代表する遺跡であり、東北の古代史の解明に欠かせない重要な遺跡の一つである。この古墳群について、藩政時代の記録である『邦内郷村志』や『内史畧』に「蝦夷塚」と呼ばれていたことや「古墳累々として幾許を知らず」等の記載がみられ古くから知られていたようである。また、その出土品について大正時代の『人間学雑誌』や『考古学雑誌』等学術誌にも取り上げられてきた。特にも和同開珎、銚帯金具、蕨手刀の他大量の玉類や装身具等の出土品は、蝦夷と律令国家との交流を知る重要な資料とされ、この地が北の文化と近畿地方を中心とする中央の文化の交流の接点となる重要な地域であることが想定されている。

熊堂古墳群の出土品の多くは、現在花巻市博物館の考古部門常設展示の主要な展示品として公開されているし、一部は、古墳群が現存する地元熊野神社の社務所にも展示室が設けられその一部を見ることができる。

熊堂古墳群は、江戸時代天保年間の開墾以降明治・大正期にその多くは破壊されたと考えられてきた。しかし、昭和61年（1986）の岩手県立博物館と花巻市教育委員会による発掘調査によって熊野神社境内を中心にしていづつかの古墳が残存していることが確認され、これを契機に再び熊堂古墳群は、注目されることとなった。

平成2年（1990）には、花巻市の史跡に指定され、地元上根子の人々を会員とする熊堂古墳群保存会が設立されている。

遺跡は、過去の各時代にその地に暮らした人々の様々な歴史的営みの痕跡である。熊堂古墳群は、古墳時代の終わり頃から奈良時代に築造されたと考えられており、江戸時代に開墾されるまで千年以上もの間、特別な区域として代々地元の人々によって保護されてきたと考えられる。

熊堂古墳保存会は、保存会発足以来古墳群の環境整備事業を行っている。更に令和2年（2020）11月熊野神社社務所の展示室の改修工事を行い、リニューアル・オープンさせた。文化財の保護と活用を实践する熊堂古墳保存会の活動に衷心より敬意を表したい。

（館長 高橋信雄）

行事予定

令和3年3月
令和2年12月

企画展示室

●共同企画展 ぐるっと花巻・再発見！

「小野寺周徳―花巻画人の先駆的存在」

会期：12月5日(土)～2021年1月31日(日)

休館日：12月28日(月)～2021年1月1日(金)

※1月16日(土)に予定していた学芸員講座は中止となりました。

●テーマ展「めでたい！花巻人形」

会期：2月13日(土)～4月4日(日)〈会期中無休〉

※ギャラリートークは中止となりました。

講座・ワークショップ

【講座】

※11月1日、11月15日(日)に予定されていた古文書講座「はじめての古文書」は中止となりました。

●館長講座「胡四王神社と胡四王山遺跡」

日時：2月20日(土)13：30

場所：講座体験学習室

定員：20名〈※要申込〉

【ワークショップ】

●花巻人形絵付け体験

講師：平賀 恵美子 氏（平賀工芸社）

日時：令和3年3月28日(日)

13：30～15：00

参加費：1,600円～

定員：15名〈※要申込〉

場所：講座体験学習室

～講座・ワークショップ申込先～

花巻市博物館 ☎ 0198-32-1030

花巻市博物館

〒025-0014 岩手県花巻市高松 26-8-1

電話：0198-32-1030 FAX：0198-32-1050

開館時間：午前8時30分から午後4時30分まで

休館日：12月28日から1月1日まで

入館料	小学生・中学生	150(100)円
	高校生・学生	250(200)円
	一般	350(300)円

※（ ）内は20名以上の団体割引料金

※割安な近隣4館共通券もあります。

※特別展示を行う場合、入館料を定める場合があります。

交通案内

- 東北新幹線
新花巻駅より車で3分
- 東北本線
花巻駅より車で約15分
- 釜石自動車道
花巻空港 I.C.より車で約5分
- バス
新花巻駅より約5分
岩手県交通 土沢線
イトーヨーカドー一
賢治記念館口下車



◇ URL <http://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/501/hanamakisihakubutukan/>

花◊博 コレクション

Hanahaku collection



↑南部政直黒印状（知行宛行状）
元和6年（1620）12月4日
個人所蔵



↑北信愛黒印状（永代安堵之事）
慶長6年（1601）8月13日 個人所蔵

花巻城御城印→
花巻市博物館受付にて
300円で販売中。
当日の日付を入れてもら
うことができます。



花巻市博物館では南部氏ゆかりのお城を文化財として保護し、整備・活用を図るため、各城を有する自治体等が連携する「南部お城めぐり」プロジェクトに参加して、花巻城「御城印」を販売しています。

花巻城「御城印」の文字は花巻城代北信愛による「永代安堵之事」の文字を使用しています。この文書の宛先である金剛坊は江戸時代初期に代々修験宗金剛寺の住職をつとめ、一時期は花巻城本丸の城内三社の別当もつとめていました。この資料は、その別当職を任じた金剛坊御房へ御供米や青銅（銅貨）を寄進して、9月の祭礼などをしっかり行うように、また、城内の氏神を和賀稗貫二郡の祈祷所とすることを命じています。

花巻城「御城印」の中央に据えた家紋は、南部家の向鶴紋です。盛岡藩主南部利直の第二子であり、最初で最後の花巻城主となった南部政直の位牌（宗青寺所蔵）に施された家紋をトレースしました。また、左下には政直が使用した黒印を押しました。これは、政直に召し抱えられた人馬刈久次宛ての知行宛行状で、稗貫郡膝立村に50石の知行地を宛がわれています。政直の職権には、前任者の北松斎（信愛）同様に、各種証文類の発給、和賀稗貫二郡内の年貢などの徴収と管理、花巻城の管理と城下の治安維持が与えられていました。また、家臣採用も任されていたため、政直は有能だと判断すれば浪人でも採用し、新たに多くの家臣を召し抱えました。（学芸員 小田桐睦弥）

南部お城めぐりプロジェクト

南北朝時代から江戸時代まで北東北を治めた南部氏一族が築いたお城を有する自治体や関係団体が運営する施設で、それぞれの「御城印」を販売しています。売り上げの一部は各城の維持管理や整備・活用にあてられます。